

三つの躰しつぱ



立町 武居 章彦

昭和の教育者であり哲学者でもある森信三先生は、「子どもに最低限三つの躰を徹底させるのであれば、一人前の人間として軌道に乗せることができる」と説いておられました。

一つ目は「あいさつ」、二つ目に「返事」、三つ目は「履き物を揃えることと椅子を立ったら椅子を元に戻すということ」。これら三つの態度は、いざれも就学前の子どもでも可能なことでしょう。

振り返って我が家、我が子ではどうかと考えます。現在小学校三年生の女の子と一年生の男の子がいますが、あいさつ、返事、後始末と、大目に見たとしてもまだまだ合格点には及びません。

「いわんや親においてをや」の現状と言えます。

なぜ森信三先生はこれら三つの行為を徹底するよう説かれたのでしょうか。

日本の文化、いわゆる「道」と言われるものはすべて形から入っていきます。そしてそれらの形にはすべて意味があり、そ

の道の根底に流れる心へとつながっていると言われています。この意味において、これら三つの行為は形であり、それぞれの行為の意味するものの根底には心があるのだと思います。

まずはあいさつ。あいさつの大切さは今日、企業や学校といった組織や、公私を問わずあらゆる場面で説かれています。さらに、この下諏訪町でもあいさつ運動を推進しています。あいさつは、周囲の仲間を承認し、敬う行為であるばかりか、口にする者の気持ちや心を前向きにする効果もあります。

気持ちよく響く「ハイ」の返事は、まさに素直な心そのものの表れでしょう。日本人の美徳と言われる謙虚さや、私利私欲にとらわれない心も、この素直な心に通じるものがあるのだと思います。



そして最後に、履き物を揃えることと、椅子を立ったら椅子を戻すこと。これは物事における後始末の大切さを述べており、後始末をする行為は、自分に関連する人や物に感謝する心へと通じているのだと考えます。

「前向きな心」「素直な心」「感謝する心」確かにこの三つの心を常に持ち続けることができるのであれば、人として生きていく上で、これ以上の生き方はないのではないのでしょうか。

こうした心の一つひとつを我が子に養っていくうえでも、まずは自分自身がこうした「形」を大事にしていきたいと思う今日この頃です。

当たり前前のことを大切に



北高木 内山 理香

私たちは、普段何げなく日々を過ごしていますが、ふと立ち止まって、「家庭のあり方」を考えてみることは大切なことだと思います。

先日ある講演会で、「マズロ「欲求」についてのお話があり、大変参考になりました。それによると、①生理的・身体的欲求（食事、睡眠等の生命維持）②安全欲求（恐怖、苦痛からの回避）③所属、愛情欲求④セルフエスティーム（尊敬、承認、支配等）の欲求。この四つが全て満たされてはじめて、知的関心、精神的ゆとり、向上心、自己達成、生きがい等が芽生えるのだそうです。これを基に考えると、納得できることがありました。

元氣よく「おはよう」のあいさつで一日が始まり、朝ご飯を食べます。「ただいま」と言っておやつをほおぼり、帰宅後の自由な時間を楽しみます。そして「いただきます」は、今日の出来事を話しながらの夕食です。

時には、笑ったりけんかしたりしながら。我が家で行われているその当たり前前のご飯、とても大切なのだということが気づかれました。マズローの四つの欲求がここに含まれていると思えました。あいさつの一声で、明るくなったり元氣をもらったりします。何気ない普段の生活の中に、こんな大切なことが隠されていたんだと気づかされました。

でも「認め合う」ことって、結構難しいことだと思います。子どもが幼い頃、どうしてよい

かわからずに一方的に叱ってしまい、後になって反省することがよくありました。

些細な出来事ですが、子どもが約束の時間になっても帰宅しなかったことがありました。その時の私は、一方的に「なぜ?」「どうして?」「だめじゃない!」の連発。当然のことながら、子どもは「うるさい!」とはね返しました。少したって、「お母さんほんとに心配していたんだよ。」とこぼすと、「ごめん。」と素直に答えてくれました。

「実は時間気になっていたので、けど、試合前なので、どうしても練習したかったんだよ。これからは、遅くなる時は連絡入れるからね。」

きちんと気持ちを伝えて話し合えば、お互い認め合うことができます。子どもの年齢が上がるにつれて会話が充実してくると、ぶつかることはあっても、お互いを理解したり認めあったりすることもできるようになりました。

意見の相違で対立するのは、とてもエネルギーが必要です。

できれば避けて通りたいですが、これがないと心の本音は見えてこないし、いつまでたっても一方通行です。大切な我が子だからこそ避けてはいけないう必要なこと、親としては、このエネルギーはいつでも持っているなければならぬと思います。

「許す・認め合う・尊敬する」ということは、一番身近で大切な家族の中で育んでいきたいことです。

また、家族全員が揃って過ごす時間は意外と短いものなので、その貴重な時間の中で、共に笑って過ごすことができるだけ多くなるように、心に留めて日々を送りたいと思っています。

